

平成 29 年度 第 2 回

甲 州 市 総 合 教 育 会 議 会 議 録

平成 30 年 1 月 30 日 開会

平成 30 年 1 月 30 日 閉会

甲州市政策秘書課

- 1 日 時 平成 30 年 1 月 30 日 (火)
午後 2 時 00 分開会
午後 3 時 00 分閉会
- 2 場 所 甲州市役所本庁 2 階 第一会議室
- 3 出席者 田辺篤甲州市長
甲州市教育委員会
保坂一仁教育長 岡村久美子教育長職務代理者
古屋安廣委員 矢崎秀明委員
事務局職員
政策秘書課長 (事務局長) 教育総務課長
政策秘書課政策調整担当リーダー 政策秘書課政策調整担当
教育総務課教育総務担当リーダー 教育総務課学校教育指導主事
- 4 欠席委員 荻原浩洋委員

- 5 協議事項等
(1) 学校の適正規模等について
(2) その他

6 議事経過

○曾根事務局長 [政策秘書課長]

(午後 2 時 00 分開会)

ただ今から平成 29 年度第 2 回、甲州市総合教育会議を開催いたします。
会議に先立ちまして、あいさつを交わしたいと存じます。ご起立ください。
相互に礼。ご着席ください。

本日は今年度第 2 回目の会議であります。私が、総合教育会議の事務局長を努め
させていただきますので、会議の進行をいたします、どうぞよろしくお願ひします。

それでは、次第にのっとりまして、会議を進めさせていただきます。

はじめに、田辺市長からごあいさつを申し上げます。

○田辺市長

本日は、今年度第 2 回目の総合教育会議の開催にあたり、ご多忙の中ご出席をい
ただき、誠にありがとうございます。

また、平素から甲州市教育の充実・発展、生涯学習の推進など、大変なご尽力を
賜っておりますことに対しまして、心から感謝を申し上げます。

さて、現在、市では今後の10年を見据え、第2次甲州市総合計画を策定中ではありますが、活力のあるまち、住みたくなるまち、住み続けたいまちとなるよう意識を持って、計画の策定に取り組んでおります。そのためには、子どもから大人まで、たくましく健康な心身を持ち、心豊かにいきいきと活動するための、魅力ある教育の構築が重要だと考えております。教育委員の皆様とは、総合教育会議を通じまして、より一層連携し甲州市の教育行政の充実に向け、ともに努力してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

前回の会議では、次期「甲州市教育大綱」の策定について、ご協議をいただきましてありがとうございます。本日も、限られた時間ではありますが、活発なご意見をいただき有意義な会議となるよう、ご協力をお願い申し上げましてあいさつとさせていただきます。

本日は大変ご苦勞様です。

○曾根事務局長

ありがとうございました。

続きまして、次第の3、学校の適正規模等について、に移らせていただきます。

こちらは、これまで何度か議会一般質問でも「学校の統廃合」などとして取り上げられております。

全国におけます動向と同様に、甲州市でも少子化は進行しておりまして、児童・生徒数は概ね減少していくことが予想されておりますが、本日の議題として「学校の適正規模等」につきまして、提案させていただきますので、ご協議をいただきたくよろしくお願ひいたします。

どうぞ皆様方からのご発言をお願いいたします。

○田辺市長

少子化が加速し、学校の児童数が減少している。学校の統廃合については具体的に考えていかななくてはならない。統廃合はまず中学校から必要と思っている。中学校は市内に5校あるが、勝沼中、大和中が対象となり得る。心配なのは、大和中と勝沼中が統合した場合、通学バスが必要となる。駅から近い場所を考えた場合には、甲斐大和駅から中央本線で塩山駅まで来た方が便利と考える生徒もいるだろう。また、塩山駅を通過し、甲府市内も視野に入れる可能性もある。その辺りをどう考えるかは難しい。

塩山北中と松里中も生徒数が減少しており、部活動そのものが岐路に立たされている。単独では県大会、関東大会にも出場することが出来ない。

また、塩山高校も生徒が少なくなっており、駅から遠く通学に不便であり、土日は通学バスも少ない。徒歩通学で苦勞をしている生徒も少なくない。産業短期大学の場所には以前の塩山高校があった経緯もあり、以前の形に戻せないか県にも伺った経過はある。塩山高校が産業短期大学の場所に戻れば、その場所に塩山北中、松

里中が入り、中高一貫教育とする案も県には示してみたが、すぐに解決する問題ではない。どう考えていくかが問題であり、皆さんと意見を交わしたい。

小学校は自身が生まれ育った場所で存続してもらいたいという意見もあるが、児童数が少なくなってくると学校として成り立っていかない。継続していくためには、地域だけでなく、他所からも集められる特徴ある学校にする工夫も必要である。特色づくりが出来るかという点でも皆さんと意見を交換したい。

○保坂教育長

市長が発言されたように、少子化問題については市教育委員会としてもこの3、4年は検討会を開催し、協議を行っているが、具体的に市民の皆さんにお示しする段階までは至っていない。

中学校の統廃合については、PTAをはじめ、地域の方々とお話をしたいと考えている。大和中は各学級平均7名の生徒数であり、非常勤の先生に依頼し、授業を行っている。大和中については、まず協議を進めていきたい。

塩山北中も厳しい状況であり、教科の先生が揃わず、部活動の実施にも支障が出ている。塩山高校の問題もあり、中高一貫教育については県教委と協議をしていきたい。

松里中は来年度1、2年生が各1クラス、3年生が2クラスで、全体でも120～30名で、いずれ単学級になる見通しである。

地域にご理解いただくことが一番大事なところであり、しっかりとした数字を持ってお話をし、皆さんにご理解をいただきたい。

学校教育の成果も非常に高い数字が出ており、人間関係も良好であり、そういった面も地域やPTAに理解をいただきたい。

○岡村教育長職務代理者

山梨市の先生が甲州市で働きたいと希望をしている話を伺い、甲州市の教育が今注目をされている。

先ほどの中高一貫教育も良いのではないかと。高校は全県一区で優秀な生徒が甲州市に流出しており、危惧している。塩山高校の魅力度が上がればと思う。

小学校では昨年末に神金小でシンポジウムが行われたが、山間部における地域との密着した手法はとても羨ましく感じる。大きな学校では出来ない、全校規模での取り組みは魅力である。

小菅村の都会から若い人を呼び込み、様々な仕事を体験してもらおう全国ネットの番組があったが、甲州市に住んで良かったと思えるようなまちづくりが出来れば、少しずつでも子どもたちが増えていくのではないかと。

○田辺市長

山梨市から来たいという先生方はたくさんいる。甲州市は教育をするには子育て環境も良い。ある方については、結婚して市外に嫁いだが、甲州市の教育が良いか

らと家族ごと引っ越して戻ってきた例もある。教育委員会をはじめ教育の取り組みを一生懸命やっていたらいる成果と思っている。

生徒数が減っているのは確かであり、どう解決していくかは課題である。中高一貫教育は難しい問題であるが、学校が存続しなくなってしまうことはもっと大変である。

○岡村教育長職務代理者

甲府市に行って甲州市の良さが分かるのではなく、いかに甲州市の良さを外に発信していくかも課題である。

○古屋委員

市内の小中学校18校は地域と職員が一体となって、教育の素晴らしい成果も上がっており、現状でも良い気はするが、統廃合を考えていく時期にあるのかも知れない。

小学校は自分で歩いて通うのが基本であるが、中学校の問題は市内全体を見据えて考えていく必要があると感じている。大和中の統廃合の動きが出ているが、大和地域だけでなく市内全体の声を聞き、総合的な計画を立てることが大事である。

いずれは塩山北中、松里中も1クラスになってしまう。

現に部活動の問題も然り、芸術学科の先生が確保出来ないという現実もある。統廃合を早く考える時期にある。甲州市は市長に協力をいただく中で、良い成果を出している。中学校の統合から進めるのが良いのではないか。

○矢崎委員

大体皆さんが発言された内容と考えは変わらない。(学校の統廃合は)避けて通れない問題であり、どんな順序で進めていくかが課題である。

まず大和中から着手し、いずれは中高一貫教育も見据えた中で進めていくのか。中高一貫は県との協議もあり、すぐには進めることが難しい。地域の生徒があそこの学校に行きたいと思えるような努力は必要である。

塩山北中、松里中が各1クラスということ踏まえると、塩山中に吸収してしまっても良いという感じはする。どの順序でどの規模にするかを探って、その先の方向性をどうするか決めておかないと難しい。是非市としての方向性を考えて欲しい。住民の意見も聞きながら旗を振らないと決まらないので、市長の考えが決まっていればその方向で良いのではないか。

○田辺市長

勝沼中から塩山中に生徒が来た時代があった。来る人來ない人の差が出てしまうのであれば、一つにまとめた方が良いとは感じる。塩山北中、松里中をまとめて一つにするのも選択肢の一つではあるが、一方で少し寂しい気もする。

○矢崎委員

ある程度は親御さんの意向も伺う中で、利便性の問題もあるが好きな方に通えば良いのではないかと。

○田辺市長

大和地区からむしろ東京方面に通う人も居るのではないだろうか。

○保坂教育長

小学校規模で見ると塩山、勝沼地区で留まっている。

○岡村教育長職務代理者

デマンドバスを通学バスに利用することは出来ないものか。

○田辺市長

利用されていない時間帯も多いので、実現しようと思えば出来るのではないかと。

○曾根事務局長

根本的にはまず中学校の統廃合があるという点では、協議を始める上での方向性は一致したように思う。小学校では教育の成果も現れている学校もある。中学校は地域の声を聞く中で方向性を定める形で進めていきたい。

○田辺市長

古屋委員が発言されたように、市全体で意見を伺うのは一つの方法である。地域に限定することなく、広く意見を伺うことで大分異なった意見が出てくるのではないかと。

○古屋委員

中学校全体をどうするべきかを地域に投げかけた方が良い。

○保坂教育長

塩山中でバドミントンをやりたい、松里中でバイオリンをやりたいという子が県内外から出てきている。留学制度をはじめ、山村留学など、新たな取り組みも考えていきたい。

○曾根事務局長

それでは、本日の協議内容によりまして、教育委員会において様々な視点から調査、研究し、統廃合に係る検討を進めていただきたいと思います。

続きまして、次第の4、その他に移らせていただきます。何かございますか。

○保坂教育長

(平成 29 年度全国学力・学習状況調査結果について、別途資料に基づき説明を行う。)

○曾根事務局長

その他よろしいでしょうか。

本日ご用意いたしました次第は以上であります。

貴重なご意見、慎重なご協議、ありがとうございました。

それでは、あいさつを交わし、第 2 回の甲州市総合教育会議を閉じさせていただきます。ご起立ください。

相互に礼。ありがとうございました。

(午後 3 時 00 分閉会)